

# 朝田教育財団

## 第37回同和教育講演会

### 三つの命題が提起するもの

7月5日、京都市子ども未来館（子育て支援センター）で、朝田教育財団の第37回同和教育講演会がひらかれた。今年には「朝田善之助の人となり語る」というテーマで元委員長をよく知る人たちが、「朝田元委員長との出会い」、「朝田学校とは」、「部落解放運動の分岐点」についてそれぞれが語るという内容であった。

はじめに「全国水平社の活動家たち」（提供・水平社博物館）より「部落解放運動の理論的指導者―朝田善之助―」の映像では、元委員長をよく知っている参加者からなつかしそうな声が上がった。その後、近代部落史の著作本を多く出版されている秋定嘉和・池坊短期大学名誉教授、元中央本部執行委員で部落解放・人権研究所名誉理事の大賀正行さん、京都市内の地域で活動をつづけてこられた高橋のぶ子さん、同じく京

朝田善之助元委員長には、「三つの命題」などの確固たる解放理論を創り上げた理論家というイメージが強いですが、5人の話を聞くとすぐれた活動家、実践家であるという実像が現れてきました。水平社時代でもいろいろな社会運動にも関心をもち、全国を飛び回って活動していたからこそ、「三つの命題」という理論ができたのだというところがよく理解できました。実践から理論にという伝統が、この京都でまだ息づい

のかを説明。すぐれた行動力（実践）と社会科学を学習しつづけたこと、周りにそれを助ける知識人がいたことをあげた。さらに解放運動だけではなく融和運動側にも人脈があったことも理論を深める要因であったらうと言われた。

都市内の地域で活躍し、「歩―識字を求め、部落差別と闘いつづける」を出版した山本栄子さん、支部活動をしながら京都市内で小学校教員、校長を勤められ、現在、朝田教育財団理事をされている山崎孝さんの5人の語り手たちが、聞き手としての山本崇記・静岡大学社会科学部准教授の進行で思い出や運動への思いを語ってくれた。

秋定さんは、なぜ元委員長が「三つの命題」など理論を創造することができた

のなかで問題意識が生まれ学習することで理論が身についた。差別は実態の反映だということが確信できた。

山本さんは、自分の部落に「おっちゃん（元委員長）」が来たとき自分たちの生活が苦しいのは差別のせいであるという話を聞いた。もっと話を聞きたいと思いつつ「おっちゃん」の家に行つたら、「運動するならば字を取り戻せ」と言われた。字を取り戻すということは自分を取り戻すことだった。

※「朝田教育財団」…公益財団法人。朝田善之助、元中央本部執行委員長が、1981年に私財を投じて「社会の発展と部落問題の解決に寄与する青少年などへの教育を振興すること」を目的として、1981年に

### 課題をだしあい、討論

#### 全国保育活動者会議

部落解放全国保育活動者会議を6月8日〜9日、広島県福山市人権平和資料館他でひらかれ、13府県連から44人が参加した。

はじめに、吉岡正博・中央教育文化運動部長、岡田英治・広島県連委員長からあいさつがあり、学習・講演会に入った。

「広島県子供の生活に関する実態調査」について、山下真澄・広島県連副委員長／広島県解放保育連絡協議会副委員長）から、広島県が実施した実態調査について説明があった。調査で明らかになった子どもの状況は、4分の1以上が生活

設立された。大学生などへの奨学事業、研修会・講演会などの啓発事業、出版・文献資料整理などの研究事業などをおこなっている。昨年、朝田善之助記念館をオープンさせる。昨年度までの10年間で、財団の理事長を務められた松井珍男子さんは、和歌山市の杭ノ瀬の出身で、2002年から2006年まで京都市副市長に就任された。現在の理事長は水田雅博さん。

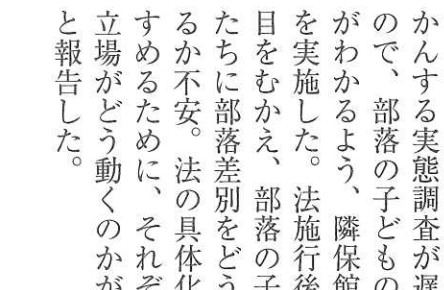
てきた。「特別措置法」が成立したとき、朝田元委員長は「10年で部落差別がなくなると思うか」と言っていた。33年たってもなくならなかった。「おっちゃん」の言うとおりであった。今も差別はある。部落が良くなれば、一般はもっとよくなっている。

2日目には、会場をかえて、分科会報告者の確認と各都府県連の報告があった。報告には「あたり前を決めつけたい」ということ

を念頭に置いている、LGBTの子どもが3歳の時、トイレに行けずにおもらししてしまったとき、「次はガンバロー」という声掛けを聞いてシヨッキングだったなど、さまざまな意見がだされた。和歌山県連の報告を松本吉弘・教育文化運動部長から「子どもにかんする実態調査が遅れたので、部落の子どもの実態がわかるよう、隣保館調査を実施した。法施行後3年目をむかえ、部落の子どもたちに部落差別をどう伝えるか不安。法の具体化をすすめるために、それぞれの立場がどう動くのが重要と報告した。



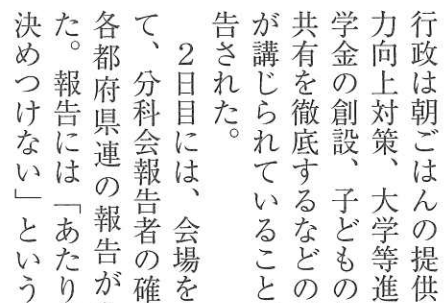
京都市副市長に就任された。現在の理事長は水田雅博さん。



3月3日の全国大会に参加したことがきっかけで運動に参加した。いろいろな組織問題が起こったとき、「委員長（朝田元委員長）」は、質から量へ変化したとき、質が低下すると組織問題が起きやすいと言われた。その言葉で運動での自分の立場を決めることができた。



全人保にむけ、あいさつする吉岡正博・中央教育文化運動部長



広島における子どもの実態について説明する山下真澄・広島県連執行副委員長